

少子化、未婚、男女共同参画社会…
様々な理由で、今や「出産する女性」は当たり前前の存在ではなくなりました。

そこで登場した職業が「出産婦」。
人口維持のため、出産が仕事の女性達です。

5人も産めば平均的なサラリーマンの生涯収入と同等の収入を得る事ができ、
現在人気が高まっている職業、「出産婦」。
我が校のように、出産学科を擁する専門学校も数を増やしています。

当映像では、そんな我が校の出産学科の授業風景をお見せいたします。



今日の授業は「孕ませ」です。

初潮を迎えた生徒たちは、性行為担任の先生により、処女を喪失し、初めての膣内射精を経験します。

プロによる処女卒業なので、素人によるものより遥かに痛みは少ないですが、それでも小さな穴が初めての経験をするのは、壮絶な痛みを伴います。

出産学科の生徒にとって、大きな山場と言えるでしょう。

「また、常識ではありませんが、万が一性行為担任の先生に処女を捧げられなかった場合、必修科目を落としてしまい「出産婦」としての資格を得られなくなってしまうます。出産婦志望の生徒は、自身の身体を大切にしましょう。」



「ゆ、優くん、見ててっ… 莉子の、処女卒業っ…!!」

「り、莉子ちゃんっ…!!」

（莉子ちゃんの、記念すべき処女卒業なのに…なぜか、胸がモヤモヤするようっ…!!）

出産学科の授業は基本、見学自由です。
特にカップルの男女には、今後性行為をする可能性があるため、
孕ませ授業の見学が強く推奨されております。





激動の一日が終了。
破瓜したての陰部が記録されます。
このように、母体の状態をデータに残すために、
1日1回以上は、陰部の記録を行います。

初めての「孕ませ」で無事妊娠していれば、
妊娠時用の授業へと進めます。
非常に高度な母体管理によって、初めての「孕ませ」による妊娠率は7割を越えますが、
それでも確実な妊娠には至りません。
それでも確実な生徒は引き続き、「孕ませ」の授業を行います。



排卵時以外の日も、「出産婦」を目指すためのトレーニングは多岐に渡ります。
もっとも一般的なのは、張形（ディルド）を用いた練習。
膣を慣らす事で、「孕ませ」もスムーズに行うことが出来るようになります。



練習を繰り返すうちに、生徒たちにも変化が起こります。
しだいに性交に慣れ、自ら性感を楽しむ生徒も増えていきます。
性行為への慣れは「出産婦」になる為にも重要な過程です。



「ちゃんっ!! 気持ちいいよおおっ!! これが、セックス…!!」
「ちよっと!! 優しくしなさいよおおっ!!」

性行為に慣れた女子は、種付学科の男子生徒の練習相手も行います。
当然、学生の間での妊娠は性行為担任によるもの以外は許されないため、
避妊具を付けたまま、性行為担任の監督のもと行われます。

性行為担任に比べてあまりに拙い技術の性行為は、女子生徒にも苦痛を伴いますが、
出産婦になった後も上手な相手ばかりとは限らないため、これも経験です。

種付学科の男子生徒もゆくゆくは優秀な性行為代理人などに就職するため、
授業内で女性の扱いを学んでいきます。



少し変わった性交練習として、
双頭デイルドを用いた
女子同士による練習も存在します。

避妊失敗のリスクが無く、
女子同士のため安心して練習ができるという
メリットがある一方で、この練習によって
同性愛に目覚める女子も少なからずおり、
出産婦への就職を辞めるケースがあるため、
担任の頭を悩ませています。





無事、妊娠した生徒達の記録。
ここから出産までを無事に終えることで、必修科目の単位となります。
学生時代に出産した場合には、政府より手厚い手当が与えられるため、
通学しながらの育児には何一つ不自由はありません。

安定期に入ってから、妊娠中の性行為について学びます。
妊娠中の性行為は、セックスレス予防の観点において非常に重要です。
無理のない体勢での性交を行います。



もちろん、種付学科の男子も、妊娠中の性行為を学びます。
性交可能な男子の数に対し妊娠中の女子の数は限られるため、
必然的に1人の女子で大勢の男子を相手にします。
しかし多くの女子は、そんな状況を楽しみながら行為に勤めます。



以上が、孕ませから妊娠までのカリキュラムとなります。
学生の時期から妊娠・出産を学ぶことにより、
立派な「出産婦」となり、この国の人口を支えていきます。

未来を担うのは、彼女たちのような次世代の母親となるでしょう。

